シンナガサキみーてぃんぐ開催レポート

ｉｎ西坂小学校区

令和７年２月22日（土）、自治会や青年部、子どもを守る会、小学校育英会、民生委員の計19人の皆さまにお集まりいただき、西坂小学校区の「シンナガサキみーてぃんぐ」を開催しました。

自己紹介では、子どもやくんち等イベントの活動、町のシンボルとなる壁画作成への思いや、西坂で暮らしていく中で感じていること等をお話いただきました。

いただいたご意見

①自治会の加入促進について

自治会未加入者がなにも負担することなく利益のみ享受しているため、不公平感があり解消したい。
また、自治会に加入していることの意味を実感できる環境にするため、支援を検討して欲しい。

市の考え方 回 答

自治会は、住民個人の自由意思に基づく任意の組織であるため、加入を義務付けることはできませんが、地域コミュニティの核として様々な活動が実施されており、地域住民の身近な暮らしを支える重要な役割を担っています。例えば、防犯対策の実施や災害時の共助、ごみステーションや道路・公園などの生活環境の整備、道路等の危険箇所に関する行政への要望など、地域住民の交流や協力によって日々の暮らしが支えられています。

自治会への加入を促進するためには、こうした自治会の存在意義やメリットを知ってもらうことが必要と考えています。

そのため、毎年11月を自治会加入促進月間として「加入促進キャンペーン」を実施し、新築マンション等への自治会加入の働きかけ、大学生への加入促進チラシ等の配布、企業を通じた自治会加入依頼、自治会活動に興味がない子育て世代含む若者世代へ向けた自治会活動の啓発動画の作成・発信など、様々な取組みを展開しています。

さらに、自治会活動の負担を減らし、若い世代やスマホ世代向けへの情報共有のツールとして、電子回覧板機能を備えた地域交流アプリを試験導入しています。

また、現役世代による地域活動へ参加を促進・支援するため、地域貢献活動に取り組み、または従業員の地域活動休暇制度の導入を実施する事業者を「ながさき型地域貢献企業等」として認定する事業を実施しています。

②西坂小学校の統廃合について

新しい環境に不安を覚えるこども、保護者がいること、高齢化率が上昇していることや小学校は地域活動の中心であることから小学校の重要性を再認識しており、今後の方針にはその視点を反映して欲しい。

市の考え方 回 答

平成29年4月に作成した学校規模の適正化と適正配置にかかる実施計画（案）により「西坂小を銭座小へ統合する。西坂小の通学区域の一部を桜町小とする」としており、平成29年度以降、西坂小の統合に向けた協議を行っています。

また、西坂地区は長崎中の校区であることから、桜馬場中・片淵中・長崎中の統合についても同時に協議を進めてきており、当該３中学校の統合について一定の方向性が固まった段階で、西坂小の統合計画について、地域や保護者の皆さまと協議を再開させていただく予定です。

③防災対策活動について

小学校を中心に地域と協力した災害対策活動ができないか。

市の考え方 回 答

各学校からの依頼に応じて、児童を対象に防災講話や防災訓練を実施するほか、小学校区で行われるお祭り等のイベントに参加し、防災関係のブースを設けたり、保護者の方や地域の方々と一緒に居住区である自治会の地域防災マップの作成を行う等の災害対策活動を進めています。

また、西坂地区連合自治会と地域と連携した避難所運営の覚書を取り交わし、西坂小学校が避難所として開設される際には、地域の方々と協力して避難所の運営を行うこととしています。

なお、西坂小学校区では令和5年度に、西坂地区連合自治会を中心に防災避難訓練を実施し、西坂公園から西坂小学校へ実際に避難する訓練や、担架、ほいさっさ、車いすを使用する訓練を行っています。

そのほか、「駅前にエスカレーターを整備して欲しい」、「くんち活動への補助を増額して欲しい」、「空き地の雑草が大きな問題になっている」等のご意見をいただきました。

いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。

鈴木市長のひと言

私自身、幼いころ約１年半ですが、西坂小学校区に住んでいたことがあり、懐かしく感じるところもありました。
参加された皆さんが、それぞれの立場で地域の発展のためにご尽力されていることがよく分かりました。少子高齢化やこどもの安全安心に関する課題等、忌憚のないご意見をいただき、ありがとうございました。

参加者からの感想

地域の抱える課題が理解でき、非常に有意義な時間だった。

それぞれの地域を愛する思いが強いと感じた。どうにか前に進もうとしている現状なので、今後のことを考えさせられた。

みなさんの意見に対して、市の考え方が聞けて良かった。

実際に対面で市長も一緒に地域の問題について話ができるような取り組みはとても良いと思いました。

発行：令和７年８月　長崎市企画政策部広報広聴課